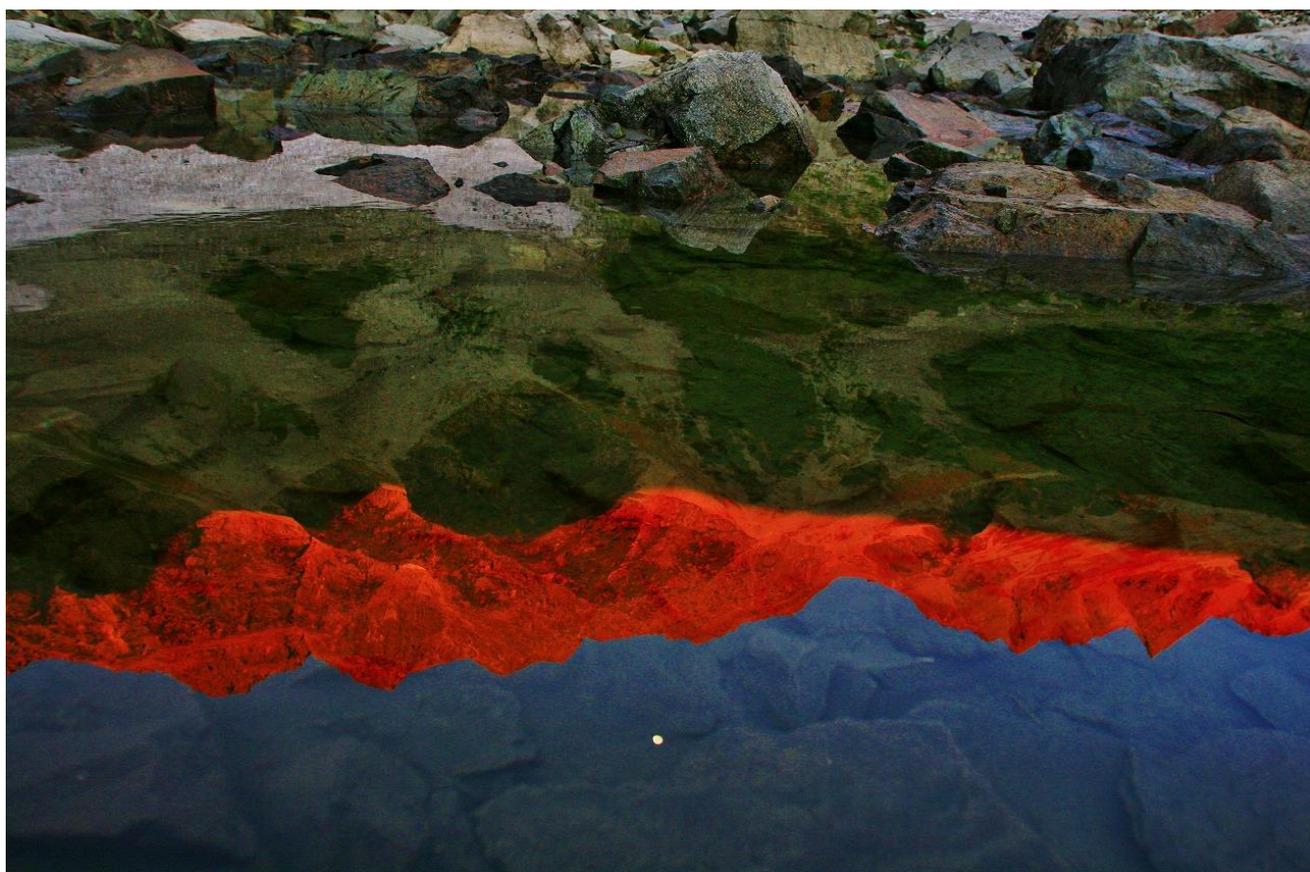


山岳友の会会報

2024年8月 第52号



Morgenroht投影：涸沢池の平 撮影：荻野 秀夫

も く じ

第70回記念現地研修会（荒船山）	報告	吉田 幸二	2
第29回上高地談話会（涸沢）	報告	高橋 里彰	7
明神養魚池メンテナンス（24.6.1-2）	報告	小林 久雄	8

第 70 回記念現地研修会

「荒船山に登り、舌切雀のお宿に泊まる」報告

吉田 幸二

日程 2024 年 6 月 20 日（木）～6 月 21 日（金）

参加者 13 名

行程 6 月 20 日 松本駅アルプス口 — 東部湯の丸 S A — 内山峠登山口 — 荒船山 — 相沢分岐 — 相沢登山口 — バス駐車場 — 磯部温泉
6 月 21 日 磯部温泉 — 一之宮貫前神社 — 妙義神社 — 妙義山中之嶽神社 — 昼食：おぎのや横川店 — 東部湯の丸 S A — 松本駅アルプス口

【第 1 日目】

今年度、「信州大学山岳友の会」のお仲間に入れて頂き、初めての現地研修会、この日をずっと楽しみにしていました。

篠ノ井線の遅延により、マイクロバスで松本駅アルプス口を予定より 35 分遅れの 7 時 50 分に出発、長野自動車道、上信越自動車道経由で、途中、東部湯の丸 S A にて塩沢さんに乗せ、内山峠登山口へと向かう。

バスは、安全運転で走っていく。出発前から飲みはじめたビールが、ハイペースで減っていく。ビールは塩沢さんに補給してもらい、さらに加速、ハイペースに驚く、また、しゃべっている内容が凄い、話題豊富で質も高く、驚く！

バスは、中部縦断自動車道へと入り、佐久中佐都 I C で降り、県道 138 号線から 254 号線へと進み、内山和紙のふるさと内山へ。内山峠登山口（標高：1,064m）に到着。準備運動、記念写真撮影後、本日の参加者 13 名で 10 時 15 分、荒船山頂へと登り始める。

私にとりましては、中学生時代の 1 泊 2 日の中央アルプス「西駒ヶ岳」登山（2 日とも雨で、見えて覚えているのは、ハイマツと山小屋だけ）、と転勤先の職場で行った弾丸登山「富士山」と「高尾山」そして、登山マラソンの「塩山から大菩薩峠」くらいで本格的な登山は今回初めてでした。



それだけに今回は、期待が大きい。整備された登山道、登り降りを繰り返しながら頂上へと向かっていく。天気も良く木々の間からの木漏れ日を浴び、結構暑い。途中、関東からの上昇気流で谷間からの風は涼しく、心地良い。鉄岩修験道跡で休憩、全員で記念撮影。また冷たい飲み物で喉を潤す。

11 時 10 分、鉄岩修験道跡を出発。だんだんと道は急坂となり、「一杯水」に着く。佐久市の説明看板によれば、「荒船山頂より流れるこの水は、荒船山登山者に昔から喜ばれ親しまれ、ここでは必ず一杯口にしたことから、この地を一杯水と名づけた」とある。ちょうど、喉も乾き、潤わせたいと思ったが、引水設備等もなく、手が届かない、岩場でもあり近づけば転落

してしまいそうな危険な場所であった。ここから上部は、急峻で岩盤の路面が多く、ハシゴやロープの連続であった。



ようやく、樹林の平坦地に登り着き、標高 1,400m 台の頂稜台地に出る。やがて、切れ落ちた岸壁「鱸岩」上部に辿り着く。恐る恐る先端近くに行き、崖下を見ようとするが、国道辺りが見える程度でそれ以上は、近づきのぞき込めない。もう少し、北へと向かう。本日の目的地である「荒船山」山頂（標高：1,423m）に丁度 12 時に到着。標高差 359m、3.4 kmを所要時間 1 時間 45 分で全員無事に登った。

荒船山を文献（雑誌）で調べてみると、

荒船山（標高：1,423m）は、南北約 2 km、東西約 400mの巨大な安山岩の台地、標高 1,400mほどの稜線に横たわっているベターと平坦な頂稜、北端の船尾を思わせる切れ落ちた岸壁の「鱸岩」。

荒船山周辺の山々とともに火山だったと言われている。（出典：「山と溪谷」荒船山 山と溪谷社）

この鱸岩から、「クレヨンしんちゃん」でおなじみの漫画家「白井儀人」氏が 2009 年に転落（落差は 120m）、命を落とした場所でもあるということです。享年 52 歳。（出典：ウィキペディア）

山頂展望台からは、左から、八ヶ岳・御嶽山・乗鞍岳・槍ヶ岳・白馬岳・物見山・浅間山・八鳳山・白根山・谷川岳等が案内板にはあったが、雲の関係もあり、八ヶ岳・浅間山ぐらいしか私には分からなかった。

山麓には、神津藤平氏が開拓した「神津牧場」があり、神津氏は、河東鉄道、長野電鉄を開通させ、「志賀高原」の観光開発に事業を拡げて行った。と細萱さんに説明をお聞きした。

また、小林さんからは、20 歳の時に屏風に登り、20 m程滑落し、登山者の上に落ちた。相手は怪我、それからまた、小林さんは、登って行った。とのこと。これは、凄い！兵ばかりいると思った。

避難小屋の前で昼食とする。その前にまず一杯ということで、イカをつまみにビールを頂く。頂上で飲むビールの味は格別であった。昼食後展望台で記念写真を撮影して、経塚山（標高：1,423m）方面へと向かう。時間がないため、経塚山までは行くことができないとのことであり、お花畑まで行くこととなった。内心では、この時は経塚山まで行きたいと思っていた。



起伏のないほぼ水平な道、まるで公園かキャンプ場である。これは、楽だと感じ、歩くスピードも速まる。そんな時、両腿に違和感が、ヤバイよ、ヤバイよ、両足が攣ってしまい、歩けなくなるのでは？不安がよぎる。

荒船山神社奥宮を過ぎ、クリンソウの群落地へ。渡邊さんいわくクリンソウなんて外来種、こんな所にあっ

ではおかしな植物、駆除すべき植物である。最初はきれいな植物と思っていたが、話を聞き、色は毒々しいピンクに見え、景観とも合わない感じもしてきた。この山は、湿地帯もあり、山自体に保水力がある不思議な山である。

ここで引き返し、下山することとなった。経塚山へ行きたいという気持ちはどこへやら、助かったという気持ちのほうが強くなった。

「相沢分岐」まで戻り、13時下山開始。登山道を行くと階段となる。木材のしっかりとした階段である。よくぞこの様な立派な階段を作ったものである。歩く腿が痛いものなんとか降りて行いけそうである。長い階段が終わり、給水を取っていると渡邊さん・山口さん・細萱さん・澤田さん・竹原さん・村重さんと一緒になる。つづら折りの登山道を下って行く。渡邊さんより立ち木のお話をいろいろと聞く。良く手入れの行き届いた途中、曲がりのない真直ぐに育った太い木である。斜面には、雑草も茂っていない。ただ、今は、育った木でも里に卸す方法・人がないようである。



登山道というか、林業の作業道は、約 50～60mキツイ勾配を下って、約 5～6mで折り返し、また、約 50～60mのスロープを下って、約 5～6mで折り返す、繰り返すのである。幅約 50cm の良く整備された道である。リハビリの者にとっては、キツイと言っていたが、リハビリでなくともキツイ。良く降りていけるなあと思った。時計を見た誰かが、下山を開始してまだ 30 分しか経っていないよ。と言った。山口さんが「まだ 30 分しか経っていないの？ 1 時間以上経っていると思った。」と言っていた。全く同感であった。案内書では、「穏やかな樹林をたどる低山歩き」初級者コースとあった。今回は、下りだから歩けたものの、これが登りだったらと考えるとぞっとする。足は痛いもののだんどんと下って行くと、ようやく「相沢登山口」（標高：592m）に 15 時 25 分に辿り着く。標高差 831m を所要時間 2 時間 30 分で降りた計算である。

道路が狭いため、登山口までは入って来れないと聞いていた。30 分歩く覚悟でどんどんと降りていった。この頃には、足も麻痺していて痛さはあまり感じない。10 分歩くとバスが見えホッとした。

他のバスの頂稜ですれ違った女性たちは、蕨採りである。元気なことに驚く。バスに乗り我々は、まずはビールである。

1 時間程で本日の宿、磯部温泉舌切り雀のお宿「磯部ガーデン」に着く。

1 階の風呂に入る。

18 時より宴会開始、我々の担当は、ネパールから来たサントス君であった。

まずは、ビールで乾杯。

ワインは、長野県塩尻市の「五一ワイン」が出て来たのには、驚いた。

最初の日本酒の銘柄は、飲まなかったため銘柄は、覚えていない。2 本目の日本酒の銘柄は「磯部」であった。

沢山の料理を頂く、特に「上州麦豚陶板焼き」「帆立のサラダ」を美味しく頂いた。変わったところでは、「桑の葉プリン」であった。

いろいろな話題が尽きない。ごはんを頂き、お開きとなる。



部屋へ戻り、また、一杯。21 時 30 分には、お開きとなる。
就寝

【第 2 日目】

「磯部ガーデン」出発前に全員で記念撮影を行う。宿の女将他に見送られ、9 時に出発。一之宮貫前神社の大鳥居を通過する頃には、天気予報とは違い、雨が降り出す。一之宮貫前神社には、9 時 15 分に到着。同神社は、群馬県富岡市一ノ宮にある神社である。



境内は正面参道からいったん石段を上がり、総門を潜っ



たところから石段を下ると社殿があるという、「下り宮」と呼ばれる配置となっている。社殿は江戸時代に第 3 代将軍徳川家光・第 5 代綱吉により整えられ、本殿・拝殿・楼門等が重要文化財に指定されている。

祭神は、経津主神（ふつぬしのかみ）と姫大神（ひめおおかみ）（養蚕機織の神）とされる。（出典：ウィキペディア）

渡邊さんから神社建築の詳しい説明を受ける。楼門の柱 1 本で我々の家が建つとのこと。これには、驚く。

一之宮貫前神社を 9 時 40 分に出発。

妙義神社物産センター駐車場には、10 時 00 分に到着。同神社は、群馬県富岡市妙高町にある神社である。参道は、急坂から始まる。次は、石階段、本殿かなと思うとまだ先に階段があり、昨日の登山道下りの腿の後遺症があり、痛いがかたく上へ。10 分ぐらいで本殿に到着。創建は 537 年とのことである。

2007 年の台風による土砂崩れで一部被害が出たため修復が必要となり、本殿につながる階段以降は立ち入り禁止となった。復旧工事は 2013 年 12 月に完了し、本殿も 5 年ぶりに一般公開されたそうです。そのためか階段の湾曲も凄かった。

本殿裏側には、天狗様も祀られていた。境内には、真直ぐ伸びた大木が数多く見られた。

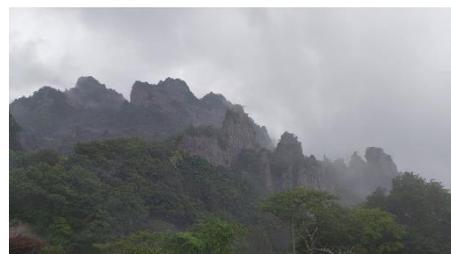


妙義神社物産センター駐車場を出発。

段々山の奥へと入って行く。霧も深くなり、この頃より雨も激しくなる。

途中、関東・甲信越梅雨入りの情報が入る。

中之嶽神社駐車場に 11 時 05 分に到着。雨は、本降りとなる。それでも駐車場からは、妙義山・金洞山と石門群がモノクロの墨絵のように見え、少し雲が掛かっているもののこの時ばかりと写真撮影を行う。



石門巡りをする予定であったが、雨が本降りとなったため、危険であるということで中止となった。

非常に残念であったが、中之嶽神社と書いてある鳥居の向こう側を見ると結構勾配のキ

ツイ石の階段が続いている。途中お踊り場もない。そこを 2 人の人が手摺りに捕まりながら慎重に降りてきている。滑ってバランスを失い転倒しようものなら、下に転落してしまい、命もない。恐ろしい所であった。この上が、石門巡りの始まりで第四から第一石門まで続くと案内板に書いてあった。「カニの横バイ」とあり、妙義神社の参道にあった写真のように岩場を鎖に捕まって横バイで歩いて行くのだろう。怖い物見たさに行ってみたい気もするが、足がすくんでしまいそうな気がする。石門巡りは、機会があれば、是非挑戦してみたい。



中之嶽神社をインターネットで調べてみると、
妙義山の南麓に鎮座する轟岩（とどろきいわ）を神体とする巨岩信仰の神社である。轟岩に隣接して拝殿が建立されており、本殿を持たない社殿形式となっている。

境内には中之嶽大国神社があり、平成 17 年（2005 年）には金色の日本一大きい大黒像（高さ 20m、重さ 8.5t）が鎮座している。大国主命（大黒天）を祀っている。子の神様であるので甲子園にあやかりたい野球チームの参拝もあり、野球の神様としてお守りも置いてある。（出典：ウィキペディア）

金色の日本一大きい大黒像は、ちょっと場違いのような感じを受けたのは、私だけであろうか？



参拝者全員で記念写真を撮る。

中之嶽神社駐車場に戻ると行く時よりも雲が動き、妙義山・金洞山と石門群が見えやすくなっていたので、また、写真撮影を行う。

中之嶽神社駐車場を 11 時 30 分に出発。

ちょうど 12 時頃昼食の場所である安中市松井田町横川のおぎのや横川店に到着。雨が降っているため、玄関横づけである。

席に着き、まずはビールで乾杯、冷えていて美味しい。昼食は、久しぶりに釜飯である。長野県内では、長野インターの近くにあったが、釜

飯は扱っていない。県内では、食べられなくなってしまったので、本当に釜飯を食べるのは、久しぶりである。これまた美味しかった。小林さんが「良くコロナを乗り越えたものだ」と言っておられたが、ほんとうにそうである。以前、横川駅で売り子さんが木箱を肩から掛け、釜飯を乗せて売っていた。その木箱は、現在も釜飯の運搬用に使用していた。非常に良き時代の懐かしさを感じた。



1 階の売店で「力餅」が気になった。峠を越えるため、昔「力餅」を食べて力をつけ、峠を登って行ったということである。20 箱ぐらいあったものが、見るたびに減って行く。無くならない内にと思い 1 箱購入した。その内に無くなってしまった。当友の会が売り上げに貢献したようである。後で食べたが美味しかった。

信越本線横川駅は、釜飯のためにあるようなものである。
バスに乗り、松井田妙義インターより上信越自動車道に乗り、碓氷峠を超え、帰路に就く。眠っていたため、この頃の記憶は全くない。塩沢さんと途中、東部湯の丸 S A にて別



れ、松本へと向かう。バスの中では、竹原さんの美味しい漬物をつまみにアルコールを頂き、エベレスト登頂の話等で盛り上がる。

今回はじめて参加して、皆さんのお陰で楽しく、「荒船山」に登り、あの勾配のキツイ下りを無事降りることが出来ました。皆さんに感謝します。楽しみを得るためには、毎日の鍛錬が必要。そして、油断せず備える必要がある。と感じました。

第 29 回上高地談話会（涸沢）報告

高橋 里彰



いや～楽しいお話しでした！（この戯文は実話に基づいておりますけど、何分戯れ文ですよってに多少の誇張はおます。文末の●はその印しですよってにそう思うて読んでおくれやす。）

そのお話しいますのは、中嶋はん、もともとは刑事志望してはったんが、お山との出会いで進路変更、そいでならはった山岳救助隊長やら県警ヘリが落ちたら腹切らなあかんかった立場の現役時代、現役を退かれはってからの山歩き、そのメモが今の山図絵本に発展していったいきさつや、ついこないだの北海道弾丸登山まで、人生一代記どしたなあ。



お山図絵本の既刊から、山歩きだけやのうて昔の山城（砦）跡も調べてはるお話、今取り組んではる百名山図絵まで丁寧に宣伝してはりました●。山城跡の調査では NHK の「英雄たちの選択」とかで人気の城郭考古学者の、長野県対抗馬を狙てはるそうですよって、皆で応援せなあきまへんな●。

お山との出会いはなんと涸沢だったそうで、それが中嶋はんの人生変えたということですけど、人生変えたんはお山だけやおへん。人との出会いです。親分や孝さんとの随分と昔の写真、見せて頂きましたえ。中嶋はん、お若い時は今以上のハンサムどしたなあ。外人さんと一緒に写真なんか中嶋はんの方が外人さんですわ。孝さんの髪の毛ふさふさの写真初めて見ました。



一時間十五分の予定のお話し、終わったんが三分前。たいしたもんどしたが、たいしたもんはそれだけやおへん。次の日の下山で機材しよった信大の学生はんが怪我しはった時、会員

の皆さんがよってたかって応急処置しはったんですが、中嶋はん、二人分のリュック担いで（50キロ近かったんちゃいますか）ソーダラップから横尾まで速攻で降りはりました。次からはあてのリュックもお願いしたいですう●。

【写真：ナベさん】

明神養魚池メンテナンス（24.6.1-2）報告

小林 久雄

6月1-2日、台風1号通過後の好天の中、養魚池メンテナンスを行いました。

養魚池は水かさが増え、水面は風によって枝が散乱しており、また池の周りの草も伸び、荒れ放題でした。

まずは、水抜きや枝上げに奮闘しました。庭や用水路周りからの草刈りをし、池の泥上げも少ない人数で頑張りました。

一輪車の故障や増えるブヨとも格闘し、午前中には池に入れませんでした。昼食後に張り切ってスタートし、4時頃ようやく目途がつかしました。



水かさのおかげか、魚も忙しく動いて、時折見える山々に安堵の一息。

夕餉は腹いっぱいすき焼きで盛り上がりました。

池に渡した橋も老朽化し、取水口や池の出口の老化も進んで、修理が必要な時期になってきています。秋には修理改善して冬支度ですね。

【写真：荻野 秀夫】

信州大学山岳友の会会報 第52号
発行日：2024年8月8日
発行：信州大学山岳友の会
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1
信州大学山岳友の会事務局
TEL：0263-37-3332
FAX：0263-37-2438
E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp